



100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしや
<p>もしきやふるきのきばのしのぶにも ももしきや古き軒端のしのぶにも</p>	<p>人もをし人もうらめしあぢきなく ひともおしひともうらめしあぢきなく</p>	<p>風そよならの小川の夕暮は かぜそよぐならのおがわのゆうぐれは</p>	<p>来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに こぬひとをまつほのうらのゆうなぎに</p>	<p>花さそふ嵐の庭の雪ならで はなさそうあらしのにわのゆきならで</p>	<p>おほけなくうき世の民におほふかな おおけなくうきよのたみにおおうかな</p>	<p>み吉野の山の秋風小夜ふけて みよしののやまのあきかぜさよふけて</p>	<p>世の中は常にもがもな渚漕ぐ よのなかはつねにもがもななぎさこぐ</p>	<p>わが袖は潮干に見えぬ沖の石の わがそではしおひにみえぬおきのいしの</p>	<p>きりぎりすなくやしもよのさむしろに きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに</p>	<p>番号 ばんごう</p>	<p>上の句 かみく</p>	<p>ころもかたしきひとりかもねん 衣かたしきひとりかも寝む</p>	<p>ごきようごくせつしやう だじようだいじん 後京極摂政太政大臣</p>
<p>なほあまりある昔なりけり なおあまりあるむかしなりけり</p>	<p>世を思ふゆゑに物思ふ身は よをおもうゆゑにものおもうみは</p>	<p>みそぎぞ夏のしるしなりける みそぎぞなつのしるしなりける</p>	<p>焼くや藻塩の身もこがれつつ やくやもしおのみもこがれつつ</p>	<p>ふりゆくものはわが身なりけり ふりゆくものはわが身なりけり</p>	<p>わがたつそまにすみぞめのそで わがたつ杣に墨染の袖</p>	<p>ふるさと寒く衣うつなり ふるさとさむくころもうつなり</p>	<p>あまの小舟の綱手かなしも あまのおぶねのつなでかなしも</p>	<p>人こそ知らね乾く間もなし ひとこそしらねかわくまもなし</p>	<p>二条院讃岐 にじよういんのさぬき</p>	<p>番号 ばんごう</p>	<p>下の句 しもく</p>	<p>ふりゆくものはわが身なりけり 焼くや藻塩の身もこがれつつ</p>	<p>さんぎまさつね 参議雅経</p>
<p>順徳院 じゆんとくいん</p>	<p>後鳥羽院 ごとばいん</p>	<p>従二位家隆 じゆにいゐえたか</p>	<p>権中納言定家 ごんちゆうなごんていか</p>	<p>入道前太政大臣 にゆうどうさきのだじようだいじん</p>	<p>前大僧正慈円 さきのだいそうじようじえん</p>	<p>鎌倉右大臣 かまくらのうだいじん</p>	<p>二条院讃岐 にじよういんのさぬき</p>	<p>後京極摂政太政大臣 ごきようごくせつしやう だじようだいじん</p>	<p>番号 ばんごう</p>	<p>作者 さくしや</p>	<p>作者 さくしや</p>	<p>作者 さくしや</p>	